

Direct and indirectly :

英語の *-ly* を伴う副詞の等位接続に関する一考察

— ロマンズ諸語と比較して —

土 屋 亮

Direct and indirectly:

Paired Usage with Coordinated English Adverbs Ending with *-ly*

— In comparison with Romance Languages —

Ryo Tsuchiya

Abstract

When English speakers put two adverbs ending with *-ly* together in a single sentence, they may say something like this:

If something drains you, it leaves you feeling *physically* and *emotionally* exhausted.

This is natural for English with both adverbs ending consistently with *-ly*. However, for some Romance languages like Spanish, when two or more adverbs are used together, only the final one attaches the suffix *-mente*, equivalent to *-ly* in English, to its ending. This can be seen in an example such as:

La inflación se encuentra *total y absolutamente* controlada. (Inflation is totally and absolutely under control)

The Spanish *-mente* and the English *-ly* have something in common, which is the fact that they were originally nouns, meaning ‘mind’ in Vulgar Latin and ‘body’ in Old English respectively, and that the nouns modified by adjectives formed a noun phrase.

The etymology of these suffixes permit us to assume that there might also be cases in English where one of two or more adverbs coordinated

loses the suffix *-ly* like *direct and indirectly*, which English speakers consider ‘incorrect’. Research on Shakespearean English grammar describes this phenomenon. On the other hand, there are very few existing studies examining the disappearance of the *-ly* suffix in paired usage within Present-Day English. We have obtained, however, more than a few examples of this phenomenon through an extensive search on the Internet.

Our examples are taken mainly from academically-oriented writings. Although investigating and assessing whether the writers’ first language is English is beyond our reach, our point is to highlight the existence of the examples in Present-Day English in reference to the same phenomenon seen in Romance languages.

序

英語において、接尾辞 *-ly* の付加によって形容詞から副詞となった語（以降、*-ly* 副詞と呼ぶ）を等位接続詞によって2つ以上連ねる際、以下の（1）や（2）、（3）のように、ふつうはいずれの副詞も *-ly* を伴う。イタリック体は筆者による。

- (1) If something drains you, it leaves you feeling *physically and emotionally* exhausted.

(COBUILD Online, <https://www.collinsdictionary.com/dictionary/english>)

- (2) Such multilingualism support practices that confront diversity challenges in public spaces also give a boost to tourist resorts and cities, helping them prosper in the international arena, both *socially and economically*. (Hogan-Brun 2017 : 61)

- (3) When we attempt to answer the question ‘What is history?’ our answer, *consciously or unconsciously*, reflects our own position in time, and forms part of our answer to the broader question what view we take of the society in which we live.

(Carr 1961 [1990] : 8)

(1) の *physically* と *emotionally* にしろ、(2) の *socially* と *economically* や (3) の *consciously* と *unconsciously* にしろ、連ねる二語はどちらも副詞なのであるから、接尾辞 *-ly* が付くのに疑義を挟む余地はない。だが、たとえば (1) の場合、前者の副詞 *physically* を形容詞と同じ形式のまま *physical* とし、*physical and emotionally* とすることはあり得ないのだろうか。すなわち、数学の分配法則のように [physical and emotional] *-ly* と分析するのである。このようなことを考えるのは、ロマンス諸語においてはこれが可能となる、あるいは義務的となる言語がいくつか存在するからである。たとえば、スペイン語では、形容詞から副詞を形成する *-mente* という接尾辞を持つ副詞が等位接続詞によって結ばれる場合、以下の例のように言わなければならない。なお、該当部分をイタリック体にするが、(4) の用例の英語訳は原典によるもの、(5) の日本語訳は筆者による。

- (4) Important: if more than one adverb in *-mente* is joined by a conjunction (e.g. *y, ni, o, pero*, etc.), *-mente* is dropped from all but the last:

ni intelectual, ni política, ni económicamente se puede mantener tal postura

‘and neither intellectually, nor politically, nor economically can such a position be maintained’

La inflación se encuentra *total y absolutamente* controlada

‘Inflation is totally and absolutely under control’

Significa mucho personalmente, pero también *cultural e intelectualmente*

‘It means a lot personally, but also culturally and intellectually’

This rule is also applied in comparative phrases like *más ampulosa que profundamente* ‘more pompously than profoundly’, *lo ex-*

plicó tan clara como sinceramente ‘(s)he explained it as clearly as (s)he did sincerely’. (Butt, Benjamin and Moreira Rodríguez 2019)

(5) El plural denota multitud, *distributiva o colectivamente*.

複数は、分配的にあるいは集合的に多数を表す。

(Bello 1847, §108¹⁾)

この (4) や (5) のように、スペイン語においては等位接続詞 *y* (英 and)、*o* (英 or)、*ni* (英 nor) や、また、比較構文によって副詞が連ねられる場合、先行する副詞の *-mente* を脱落させる。本稿で言及するロマンス諸語のうち、スペイン語同様 *-mente* の脱落が可能となるのは、ポルトガル語、カタルーニャ語である。現代のイタリア語およびフランス語では副詞化接尾辞の省略は一般的ではない²⁾。また、次節で述べるが、カタルーニャ語においては、先行する副詞の副詞化接尾辞 (カタルーニャ語では *-ment*) を残し、後続する副詞の接尾辞を省略する。一方、英語においては、これとは対照的に、(1) から (4) の用例で示されているとおり、接尾辞 *-ly* を伴う副詞がそのまま接続されている。しかし、規範的にはともかく、形容詞を *adj.*、等位接続詞を + の記号、*-ly* で終わる副詞を *adv. (ly)* と表すと、[*adv. (ly)* + *adv. (ly)*] と同じ機能を持つ [*adj.* + *adv. (ly)*] という語列、すなわち先に示した *physical and emotionally* のような例は英語には見られないのであろうか。本稿では、スペイン語をはじめとするロマンス諸語の副詞化接尾辞、および英語の *-ly* の由来について概観した後、この現象について記述している先行研究を探し、英語における [*adj.* + *adv. (ly)*] の用例を蒐集、分析する。

1. ロマンス諸語の副詞化接尾辞 *-ment(e)*

口語ラテン語が時代とともに変化することによって形成されたロマンス諸語において、形容詞から副詞を構成する方法は、*-ment(e)* という接尾辞を形容詞の女性単数形に接続するというものである。ただし、現代において言語名が国名と一致する主要なロマンス諸語の中で、ルーマニア語に

はこの方法は根付かなかった（小林 2019）。イタリア語、スペイン語、ポルトガル語では *-mente*、フランス語、それから、主にスペイン国・カタルーニャ州で話されるカタルーニャ語においては *-ment* という接尾辞を用いる³⁾。「明らかな」という意味の形容詞を、それぞれの言語で副詞化すると、以下ようになる。ただし、形容詞は男性単数形で示す。

(6) 「明らかな」→「明らかに」

イタリア語：chiaro → chiaramente

スペイン語：claro → claramente

ポルトガル語：claro → claramente

フランス語：clair → clairement

カタルーニャ語：clar → clarament

(英語：clear → clearly)

(6) に示したロマンス諸語にはいずれもラテン語から受け継いだ名詞の文法性（男女⁴⁾）の範疇が存在し、形容詞は名詞を修飾する際、その性と数に合わせて形態を変化させる。そして、*-ment(e)* の接尾辞で副詞が作られる際、このいずれの言語においても形容詞は女性単数の形をとる。なぜなら、*-ment(e)* がラテン語の女性名詞 *mens*（「心、精神」の意）の奪格 *mente* に由来し、形容詞はこれを修飾しているからである。したがって、現代では *-ment(e)* は文法化を遂げ、副詞化に必要な接尾辞となっている⁵⁾が、元来は名詞句であったということである。この *mente* によって副詞（的な働きをする名詞句）を形成するという方策は、エルコック（2009）によれば、古典ラテン語期には見られるという⁶⁾。なお、(7) の引用文中における「フ」は現代フランス語を、「カス」は現代カスティーリャ語、すなわちスペイン語を、「イ」は現代イタリア語を意味している。(8) の引用文においても同様である。

(7) 副詞の語形の発展の中で西部の俗ラテン語の最も著しい革新は、奪

格 MENTE に女性形容詞を先行させて形成する迂言法の創造だった。これは古典ラテン語において実証される。即ち、オウィディウスは MENTE FERANT PLACIDA “平静な心で、辛抱強く” という形を用い、クインティリアヌスは BONA MENTE FACTUM において形容詞を名詞と併置している（フ bonnement, カス buenamente, イ buonamente を参照）。この mente が様態を示す副詞的接尾辞になるような迂言法の固定化は、恐らく極めて徐々に起こったのだろう。

（エルコック 2009 : 157）

(7) のオウィディウスの例が示すように、*mente* が形容詞から副詞を形成する接尾辞として文法化していなかったこの時点においては、*mente* と *placida* が離れ、この間に動詞 *ferant*⁷⁾ が置かれている。なお、スペイン語の歴史においては、*-mente* の異形態である *-mientre*、*guisa*⁸⁾ や *manera*、*modo*（意味はいずれも「方法・仕方」）といった他の語が副詞化接尾辞として用いられたこともあった（安達 2009、Dworkin 2018 : 45）が、これらは形容詞を副詞化するための接尾辞としては文法化せず、後者三つの語は単独の名詞として残存する。

さて、本稿では、ロマンス諸語における等位接続される副詞の接尾辞の省略可能性を参照点として、英語の *-ly* を伴う副詞の接尾辞省略の可能性を検討しようとしているわけだが、この副詞化接尾辞の省略可能性については、序で述べたように、先行する副詞の接尾辞を省略する場合と、後続する副詞の接尾辞を省略する場合の 2 とおりが考えられる。この後者の場合について、先のエルコックをふたたび引用しよう。

(8) 古イタリア語とプロヴァンス語では二つの副詞の中で前の副詞には *mente* を付ける必要がなかった（例：古イ *villana ed aspramente*）。そしてこの構文は近代カスティリア語と近代ポルトガル語に今なお存続している（例：カス *clara y distintamente*）。古カスティリア語

とプロヴァンス語では、*mente* は時に最初の形容詞にしか付けられなかった（例：francamen e corteza, cruelmen e amara）。このような構文は古フランス語における方が稀だった。『ロランの歌』から *humeles et dulcement* の例を挙げてみよう：

Vers Sarrazins regardet fierement “彼はサラセン人らには厳しく睨み、

E vers Franceis humeles e dulcement, フランク人らには慎ましく優しく眺める”
（エルコック 2009：157）

(8) の引用文にある「古カスティリア語」はつまり古いスペイン語であるが、これとプロヴァンス語は、先行する副詞の *-mente* を残し、後続する副詞の *-mente* を省略したという。エルコックはふれていないが、これはカタルーニャ語においても同様である。以下の (9) と (10) を見よう。なお、(9) の太字強調は原著による。

- (9) When two or more adverbs are conjoined, *-ment* may be omitted from all but the first, though it need not be: **humilment i devote** or **humilment i devotement** ‘humbly and devoutly’.

(Wheeler and Dols 1999：222)

- (10) La intervenció psicològica avançada (IPA) fa referència al conjunt d'accions i estratègies d'ajuda psicològica en persones afectades *directament o indirecta* per un incident crític.

(https://interior.gencat.cat/web/.content/home/030_arees_dactuacio/proteccio_civil/plans_de_proteccio_civil/plans_de_proteccio_civil_a_catalunya/documents/PROTOCOL_ATENCIO_PERSONES_CATALUNYA_APCAT.pdf)

カタルーニャ語においては、副詞化接尾辞の *-ment* を繰り返す (*humilment i devotement*) ことも可能であるが、先行する副詞の *-ment* を残し、後続

の *-ment* を省略する (*humilment i devote*) ことも可能である。(9) は文法書の記述であるが、(10) はインターネット上から得た例であり、これが現象を例証している。ただし、(10) に現れている等位接続詞は *o* (「あるいは」) である。カタルーニャ語は地理的に、カステイーリャ語とプロヴァンス語の中間に位置する言語のひとつであるが、この *-ment(e)* の省略法についてはプロヴァンス語寄りの特徴を有していると言えよう。さて、次節では、英語の副詞化接尾辞 *-ly* の通時的発達について概観する。

2. 英語の副詞化接尾辞 *-ly*

現代英語において形容詞を副詞に転用する方策はいくつかあるが、そのうちの 하나가 *-ly* という接尾辞を用いることである。また、この *-ly* という接尾辞は形容詞の副詞化専用の接尾辞ではなく、名詞を形容詞に転用する際にも用いられる (*love* → *lovely*)。ここでは、この *-ly* の通時的変遷の概要を確認すべく、下の Kastovsky (2006) を見ておこう。

¹⁰⁾
This ambivalence can be explained historically, because adverb-formation is the result of the grammaticalization of a derivational process. The suffix *-ly* goes back to OE *-lic*, which was an independent noun meaning 'body, form'. Thus, *-lic*-formations started out as nominal compounds, but then developed an adjectival function [...] An OE formation *cildlic* was therefore structurally parallel to its Modern English equivalent *childlike*. From such adjectives adverbs could be formed by adding the suffix *-e*, e.g. *cildlice*. In Early Middle English this *-e* was lost, and the suffix *-ly* also adopted an adverbial function as in *slowly*, *royally*, besides continuing to act as an adjective-forming suffix, cf. *manly*, *princely*, etc. German and the Romance languages have undergone similar developments. Such grammaticalization processes obviously fudge the boundary between derivational and inflec-

tional morphology.

(Kastovsky 2006 : 152)

名詞から形容詞を形成し、形容詞から副詞を形成する接尾辞の *-ly* は、古英語の *-lic* (現代英語の *-like*、現代ドイツ語では *-lich*) にさかのぼるが、ロマンス諸語における *-ment(e)* 同様、元来は名詞であって、意味は「体・形」であったという。事象の様態を表すのに、ロマンス諸語はもともとラテン語において「心」を意味した *mens* を、形容詞を副詞化する際の方策とし、古英語が「体」を意味する名詞 *lic* を用いたというのは、好対照をなしており興味深い¹¹⁾。引用した文章の最後にあるように、ゲルマン系の言語とロマンス諸語では、副詞化接尾辞となった元の語の原義は異なるものの、同様の文法化を経験した。この事実を基に、以下の節ではロマンス語を参照点として、筆者の知り得る限り、記述されていない英語の副詞化接尾辞 *-ly* の省略可能性に焦点をあてる。

3. 等位接続される副詞から *-ly* が省略される事例

3.1. 先行研究 (現代英語)

本稿の冒頭で確認したように、現代英語において *-ly* 副詞を等位接続する際、通常いずれの副詞も *-ly* を伴うであろうが、このことをわざわざ「そのようにすべきである」と説明している文法書は、筆者の目の届く範囲では見あたらない。また、本稿で探しているような、現代英語において等位接続される *-ly* 副詞のいずれかの接尾辞 *-ly* が省略される現象を記述している文献も見つけることはできなかった。後述するように、実はこの現象は中世以前の英語においては珍しくない現象であり、それについては先行研究が存在するが、現代英語については、野原 (2002) が、Shakespeare の英語でこの現象が見られるのを取り上げている箇所、「現代英語では逆に、どちらか (両方とも *-ly* 接尾辞をもつか、両方ともたないか) に揃えるのが一般的である (野原 2002 : 60)」と述べているのみである。他方、

数多く見つかるのは、“flat adverbs (平らな副詞 = 形容詞と同じ形態の副詞)” と呼ばれる、-ly の接尾辞を伴わず、形容詞と同じ形態のまま副詞の機能を果たしている語を記述した研究である。個別の研究では、いま言及した野原 (2002)、*think different* のような副詞として用いられる *different* について調べた西部 (2007)、-ly 副詞の歴史的変遷をたどる田畑 (2017)、イギリスの方言における flat adverbs の使用について調査した Tagliamonte (2018) がそうであるし、文法書では基本文献である Quirk *et al.* (1985 : 405-407)、Declerck (1991)、安藤 (2005 : 539-542)、Swan (2016 : §194)¹²⁾、Huddleston and Pullum (2017 : 134-138)、Depraetere and Langford (2020 : 11-13) のほか、これは英語文法の学習参考書という位置付けの書籍であるが、江川 (1991 : 132) がこれを取り上げている。Swan (2016 : §194) からいくつか flat adverbs の具体例を拾い、以下に示そう。なお、以下の例は原典では連続して書かれてはおらず、また太字の強調は原著による。

clean The adverb *clean* means ‘completely’ before *forget* (informal) and some expressions of movement.

*Sorry, I didn’t turn up – I **clean** forgot.*

*The explosion blew the cooker **clean** through the wall.*

direct *Direct* is often used informally as an adverb.

*The plane goes **direct** from London to Houston without stopping.*

American English

In informal American English, many other adjective forms can also be used as adverbs of manner.

*He looked at me real **strange**. Think **positive**.*

Swan (2016 : §194)

Swan は「正しい」といった規範的な価値観を表す用語を使用していないが、

一方で Depraetere and Langford (2020) は同じ現象を扱った箇所では、“adjectives such as *slow*, *quick* and *easy* have derived adverbial forms (*slowly*, *quickly*, *easily*) but can often be found, at least informally, used as adverbs. Note, though, that many people consider this incorrect and sloppy (ibid. 12) (下線は筆者による)”と指摘している。なお、この Swan の例の最後のものは、*He looked at me really strangely.* とするのが ‘informal’ ではない場面では求められるだろう。連続する 2 つの -ly 副詞が両者とも接尾辞を失っているのは興味深い。これは等位接続ではなく修飾・被修飾の関係である。安藤 (2005) は筆者が確認した先行研究の中で唯一、形容詞と -ly 副詞が等位接続詞 *and* によって結合されている事例について述べているが、これは定型表現であり、やはり純然たる等位接続ではない。

次の表現では、A and B の語順が固定し、かつ、B は A の付属物であることを示す。[...]

NB 2 Everyone arrived nice and early. (みんな、とても早く到着した)
[= very early] この場合は、逆に A が B を修飾している。

(安藤 2005 : 592)

引用箇所を読むまで筆者も不知であったが、このように *nice and early* という語列で *very early* を意味するという。

以上、概観したように、やはり、少なくとも現代英語の区分においては、本稿で検討している現象について記述している個別の研究ないし文法書は、筆者の知り得る限り、存在しないと思われる。次節では、中英語に関する先行研究を概観しよう。

3.2. 先行研究 (中英語)

前節でふれたように、本稿で検討している等位接続される 2 つ以上の -ly 副詞のいずれかから接尾辞 -ly が省略される現象は、中英語においては珍しい現象ではなかった。現代英語の母語話者はこの現象を珍しがるか

しれないが、ロマンス諸語を知る者にとってはそうではない。後述するように、この現象を受け付けられない話者がいることを、逆に、不思議に思うだろう。まず、やや長くなるが、シェイクスピア英語についてのモノグラフである大塚（1976）から次の箇所を引こう。

今日の英語で“-ly”なる接尾辞をつけて副詞に用いるところを、“-ly”のない形容詞の形が、シェイクスピア時代には副詞としても用いられた。その理由は、一概には言えない。中には古来形容詞と副詞とが同一であったものもある。たとえば“clean”, “deep”, “bright”などは、古い英語で、形容詞の接尾辞に“-e”を付けて副詞として用いられていたが、その接尾辞の“-e”が落ち、形容詞と副詞とは同形になった。また、“bitter cold”, “real good”のように、ある定まった結合のときだけ、形容詞と同形の副詞をとるものもあれば、“exceeding”, “excellent”, “marvelous”, “sore”のように強意的用法のときだけ“-ly”をつけないで副詞に用いられるものもある。この最後のような用法はシェイクスピア時代には最も普通なもので、十八世紀ごろまで見られていたが、十八世紀の中ごろから十九世紀になって、一つには過剰な文法意識に刺激されたせいもあって、しだいに衰微し、今日では形容詞の誤用とされている。しかしアメリカ英語には、イギリスの標準英語よりも、多分にこの用法が残っており、イギリスでも俗語では相当盛んに使われている。

なおこれに関連して、二個の副詞が対になって“and”(または“or”, “but”など)によって結ばれるとき、前(または後)の副詞は“-ly”を省いて形容詞と同形にする方法が、シェイクスピアにはよく見られる。式で書くと、“X-ly+Y-ly”が“X+Y-ly”(または“X-ly+Y”)となるのである。

Good gentlemen, look *fresh* and *merrily* (諸君、いきいきとした快活な顔つきをしておいでなさい) *Cæs.* II. i. 224.¹³⁾

Look'd he ... or *sad* or *merrily*? (悲しそうでしたかそれとも愉快そうでしたか) *Err.* IV. ii. 4.

Most *strange*, but yet most *truly*, will I speak (私は実に奇怪なことばかり申しておりますが、それはどこまでも真実のことです) *Meas.* V. i. 37.

And that so *lamely* and *unfashionable* (しかもこんなにかたわでみにくく) *R3.* I. i. 22.

His grace looks *cheerfully* and *smooth* to-day (殿下は本日のごきげんがおよろしいようです) *Ibid.* III. iv. 50. (大塚 1976: 26-27)

引用部の冒頭は flat adverbs についての分析だが、後半では等位接続される -ly 副詞の -ly が脱落する現象についてふれられており、シェイクスピアからの実例が示されている。しかも、挙げられている4つの例のうち、後半の2つは [adv.(ly) + adj.] になっている。また、シェイクスピアにおける flat adverbs そのものに焦点をあてた研究である岩本・田島 (1994) においても、わずかではあるが、この現象についての言及がある。実例中の下線は岩本・田島による。

上記以外に、さらに付け加えておかなければならない点がある。それは、二語以上の副詞が同一の動詞を修飾する場合そのなかの一語にのみ ly 副詞を付け、残りは単純形を使うという特徴である。たとえば、以下のような例が6例見出された。

And I, most joyund, apt and willingly. To do you rest, a thousand deaths would die (TN 5.1.132-3)./And here the smug and silver Trent shall run In a new channel, fair and evenly (1H4 3.1.102).

上の例は一番最後の副詞のみが ly 形となっているが、以下の一例だけは最初に来る副詞のみが ly 形となっている。

Speak so startingly and rash? (OT 3.4.79)

このような環境でも、単純形副詞は生じやすいといえる。

このように、中英語と言ってもシェイクスピアの英語に関する研究しか検討していないが、2つ以上の *-ly* 副詞が等位接続される際、そのいずれかの接尾辞 *-ly* が省略されることは珍しいことではなかった。同時代の他の作家にこれが見られるかどうかについては別の研究を要するが、この現象が数世紀を経た現代において、文法書などでも記述されない程度の言語事実に移行しているということが言えよう。後述するように、現代の英語母語話者はこの *-ly* の省略を容認しない。このことは、現代英語においてこの実例が存在しないことを意味するのであろうか。次節で検討する。

3.3. 現代英語における用例調査

大塚 (1976) や岩本・田島 (1994) 等の研究によって、いま我々が検討している [adj.+adv.(ly)] の語列がシェイクスピアの英語に見られることは判明したが、本稿において蒐集したいのは現代英語における実例である。現代の英語において、*-ly* 副詞が等位接続される際に、先行する *-ly* 副詞の *-ly* が省略される例は、存在するのであろうか。少なくとも我々が参照できた先行研究では記述のなされていない現象であるから、資料体が文学作品等に限定されがちで、‘and’ や ‘or’ が正規表現となるコーパス上での調査を選ぶよりも、インターネット上においてどの程度実例を発見しうるのかという漠然とした印象を掴むことを目的とする。そこで本稿では、Google を用い、以下の (i) から (iii) の語列を検索し、[adj.+adv.(ly)] に該当すると判断可能な例を蒐集する。なお、シェイクスピアに見られた [adv.(ly) + adj.] の語列については、今回は調査の対象外とする。

- (i) “official and unofficially”
- (ii) “direct and indirectly”
- (iii) “physical and emotionally”

(i) から (iii) の語列はいずれも、意味が対になるような表現で、これまで筆者が英語やロマンス諸語において副詞化接尾辞を伴う「完全な」形で見たことのあるものである。さて、これら (i) から (iii) までの語列を検索し、得られた例の中から、用例の該当部が筆者の求める文法的機能を果たしていると容易に判断可能なものを選んだうえで、ツイートやフォーラムの投稿など、書かれた文章が推敲される機会がないと思われるもの、引用するにあたり内容が相応しくないものは除外した。

まず、(i) の語列の実例を以下に提示しよう。7 例ある。該当部分をイタリック体にし、用例を取得したウェブサイトの URL を示す。

- (11) The partnering structure both *official and unofficially* accepted is that problems will be resolved without recourse to legal remedies but through joint problem solving.

(https://www.academia.edu/434909/Project_Alliancing_Vs_Project_Partnering_A_Case_Study_of_the_Australian_National_Museum_Project)

- (12) Second, the research provides an analysis of the work of *official and unofficially* appointed members of indigenous communities and other organisation such as Non-government organisations (NGOs) that help promote mental health and well-being in these communities.

(<https://encyclopedia.pub/97>)

- (13) I've been a fan of whisky from the isle of Jura for a few years now, slowly working my way up the chain of their bottling's. For those you who would like to know, Jura is an island of the inner Hebrides that has been producing whisky *official and unofficially* for several hundred years.

(<http://www.silverfoxguide.com/spirits/jura-prophecy>)

- (14) Throughout each era of American history, patriotic women volunteered to serve their country in a wide variety of *official and unofficially* sanctioned capacities.

(<https://www.routledge.com/Women-in-the-United-States-Military-An-Annotated-Bibliography/Bellafaire/p/book/9780415801461>)

- (15) As in most complex systems law Palestine has various levels of legal pluralism, both *official and unofficially*.

(<http://www.barhumanrights.org.uk/wp-content/uploads/2005/03/Palestinian-Manual-full-final-v2.pdf>)

- (16) Most cars manufactured after 1994 were filled with R134a from new so our system is compatible with a huge range of *official and unofficially* imported vehicles.

(<https://www.amazon.co.uk/Aircon-Conditioning-Recharge-Refill-Re-gas/dp/B00JVVUSRY>)

- (17) When legal historians and musicologists have written about the early history of copyright in musical compositions in the late eighteenth and early nineteenth centuries, they have relied on the mere handful of incomplete *official and unofficially* reported cases from the period.

(<https://laps.yorku.ca/dare/improvising-the-law-of-copyright-in-music-music-publishers-composers-and-copyright-litigation-in-great-britain-from-1777-to-1842-2/>)

(13) と (16) はここに集めた例の中では *informal* と言える上に、書いた人物も見えないが、ほかの例に関しては、この用例が実際にウェブ上にアップロードされるまでに、複数の英語母語話者の目にふれているものだろうと思われる。

次に、(ii) の語列を検索し蒐集した例を以下に示す。5 例ある。

- (18) This paper conducts a comparison between *direct and indirectly* liquid-cooled topologies for coreless linear motors with multiple coil layers.
(https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieejjia/7/4/7_329/_article/-char/ja/)
- (19) Island size affected diversity of web-building spiders, predatory beetles and other beetles (detritivores and omnivores), *direct and indirectly*.
(<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1111/jbi.13765>)
- (20) In this study, we investigated how both personality and density affect viral infections both *direct and indirectly*, using the multi-mammate mice (*Mastomys natalensis*) and Morogoro arenavirus (MORV) as a model system.
(<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.1002/ece3.5541>)
- (21) Findings shed light on classification of self-harming behaviors, casting doubt that firm boundaries differentiate *direct and indirectly* self-harming behaviors.
(<https://experts.umn.edu/en/publications/comparing-self-harming-intentions-underlying-eating-disordered-be>)
- (22) The hospitality sector encompasses a wide variety of activities within the services sector and is a major job provider both *direct and indirectly*.
(<http://sohm.in/>)

上に示した5つの例の中で、英語母語話者が書いていると確信を持てるものはなかった。

では最後に、(iii) の “physical and emotionally” の例を提示しよう。全部で10例ある。

- (23) In addition, they suggest that despite potentially experiencing stigma and discrimination related to their sexual identity, gay and bisexual adolescents and young men are still able to experience *physical and emotionally* satisfying sexual relationships, even at relatively early ages in adolescence.

(<https://link.springer.com/article/10.1007/s10508-020-01738-3>)

- (24) Using dance as a medium for healing, she leads movement classes designed specifically for women who have endured *physical and emotionally* abusive relationships.

(<http://arts-sciences.buffalo.edu/theatre-dance/faculty/faculty-directory.host.html/content/shared/arts-sciences/theatre-dance/faculty-staff/full-time-profiles/delmonte-jenna.html>)

- (25) This conference seeks to understand more fully the implications of sexual and gender identities as part of individual and cultural concepts of larger systems of race, ethnicity, gender binaries, spirituality, and class in relation to *physical and emotionally* lived landscapes.

(<https://www.k-state.edu/lgbt/leadershipconference/CFPIgbtconference2.pdf>)

- (26) These programs may benefit clients *mentally, physical, and emotionally*.

(<https://commons.lib.niu.edu/bitstream/handle/10843/13665/capstone%20pdf%20submission.pdf?sequence=1&isAllowed=y>)

- (27) We are likely to experience the impact in how we think, act, and feel, both *physical and emotionally*.

(https://www.une.edu/sites/default/files/after_a_traumatic_event_-_stress_reactions_and_self-care_strategies_880.pdf)

- (28) Caring for our students means caring for every aspect of them –

mentally, spiritually, physical, and emotionally.

(<https://www.lbc.edu/undergraduate/student-life/campus-services/>)

- (29) In reality, the Black family provided a strong support system that enabled, and still allows, many African-Americans to survive both *physical and emotionally* in the face of considerable obstacles.

(<https://teachersinstitute.yale.edu/curriculum/units/1990/5/90.05.10.x.html>)

- (30) Participants identified feeling *physical and emotionally* fatigued after working a 12-hour shift, and that it was hard to determine if the fatigue was “just regular fatigue or compassion fatigue.”

(https://repository.arizona.edu/bitstream/handle/10150/626351/azu_etd_15938_sip1_m.pdf?sequence=1&isAllowed=y)

- (31) The weekend was packed with activities ranging from auditions performed as duets, seminars that targeted the connection between parents and their children, and both *physical and emotionally* strenuous tasks such as a trust walk and climbing the “Alumni Rock”.

(<https://www.hyde.edu/blog/2014/01/30/the-bath-weekly-january-20-january-24/>)

- (32) Are your pupils *physical and emotionally* healthy?

(<https://www.st-giles.walsall.sch.uk/physical-education/>)

(23)、(26)、(30) の例を除き、当該の文を書いた人物が誰であるか不明のものが多いが、そのかわり、ドメインが edu.¹⁴⁾ となっているものなど教育機関のウェブサイトから文例を蒐集したので、一定程度の質の担保がなされていると考える。各例文の特徴については次節で分析する。

3.4. 分析

3.4.1. [adj.+adv.(ly)] の出現環境

前節 3.3. において、[adj.+adv.(ly)] の文例を 22 例集めた。-ly 副詞は機能が多様であり、文全体、動詞句、形容詞や副詞等を修飾する。今回蒐集した 22 例における [adj.+adv.(ly)] の文中における機能は、下の (33a) と (33b) の 2 パタンに大別できる。

- (33) a. [adj.+adv.(ly)] + 副詞／形容詞・分詞 (+名詞)
- b. 動詞句／文全体 + [adj.+adv.(ly)]

(33a) に該当する (10) では、[officially and unofficially] accepted という文意であろうし、(11) も、[[officially and unofficially] appointed]] members と解釈する必要がある。他の例では、(13)、(15)、(16)、(17)、(20)、(24)、(25)、(30)、(31)、(32) がこのパタンに該当する。一方、(33b) に該当するのは、(12)、(14)、(18)、(19)、(21)、(26)、(27)、(28)、(29) である。たとえば、(29) では to survive [both *physically and emotionally*] と捉える必要がある。今回蒐集した 22 例のうち (33a) に該当するのが 11 例、(33b) に該当するのが 9 例で、大きな偏りはなく、副詞化接尾辞 -ly の脱落と、[adj.+adv.(ly)] の前後に共起する要素との関連は、少なくとも本稿で検討した実例に関しては、ないと言える。

3.4.2. 蒐集した例の特徴と英語母語話者による判断

次に、今回蒐集した実例の特徴を検討する。本稿で集めた 22 例の使用域は限定的で、編集や査読、校正といった作業を経る学術的なものを意識的に集めたが、英語の母語話者が書いたという確証のあるものは少ないうえに、そもそも誰の手によるものか全く不明なものさえある。以下に、蒐集した 22 例の情報を提示する。

(11) は、ロイヤルメルボルン大学の教授他によって書かれたもので、執筆者の説明には、Derek H.T. Walker is Professor of Construction Management at the RMIT University, Melbourne, Australia. Keith Hampson is CEO and Renaye Peters is a Research Assistant, both at the Queensland University of Technology, Brisbane, Australia. とあり、母語話者であると思われる。

(12) は、ノートルダムオーストラリア大学の Ebinepre. A. Cocodia という人物が書いた文章から取った文である。引用元の <https://encyclopedia.pub/97> は、Scholarly Community Encyclopedia というサイトで、執筆者が自身の研究の概要を示しているページである。

(13) は、スコットランド・ジュラ島のウイスキー製造者のウェブページから取ったもので、ジャンルの硬軟で言えば軟にあたるであろう。執筆者は不明である。

(14) は、Judith A. Bellafaire という歴史家が書いた *Women in the United States Military: An Annotated Bibliography* という書籍についての概要から取られたものである。その書籍の出版社ウェブページ上に記載されている。著者の出版時点の肩書は、「アメリカ合衆国兵役における女性の歴史記念館」の主任歴史家 (the Chief Historian at the Women in Military Service For America Memorial) というものである。書籍そのものから得たわけではないので、厳密には誰が書いたのかは不明である。

(15) の文は、Theodora A. Christou という人物が書いた Human Rights Manual for Palestinian Lawyers: Identifying, Investigating and Prosecuting Human Rights Violations という文書の一部で、Bar Human Rights Committee of England and Wales なる組織から発行されている。氏名からして執筆者はギリシア語圏の出身と思われるが、それ以上は不明である。

(16) の文は、イギリスの amazon のウェブページに掲載されている、自動車のエアコンにガスを補充する機器の商品概要から取ったものである

が、書いた人物は不明である。

(17) は、カナダのヨーク大学のウェブページから取ったものである。一般・専門教養学部の学部生に向けられた、夏季研究コンクールのプロジェクトタイトルの概要を示したページであり、母語話者が書いたものと思われる。

(18) は *IEEJ Journal of Industry Applications* という雑誌に掲載されている論文 “Electromagnetic and Mechanical Performance of Direct and Indirectly Liquid-cooled Coreless Linear Motors with Multi-layer Coils” からの一文で、T. A. van Beek、J. W. Jansen、B. L. J. Gysen、E. A. Lomonova という4人の著者によるものである。この論文の題目にも direct and indirectly が使用されているが、著者らの名からすると、英語の母語話者ではない可能性が高い。

(19) は *Journal of Biogeography* という雑誌に所収されている “Direct and indirect effects of island size and wave exposure on shoreline arthropod diversity” という論文の概要欄から取ったものである。ストックホルム大学の Alma Strandmark という人によって書かれたものだが、母語話者とは思われない。

(20) の文は、学術雑誌 *Ecology and Evolution* 所収の “Relationship between population density and viral infection: A role for personality?” という論文から取得した例である。7人の著者によって書かれたものだが、筆頭著者はベルギーのアントワープ大学で進化生態学を専攻する博士課程の大学院生 Bram Vanden Broecke という人物である。氏名からして、この人物は英語の母語話者ではない可能性が高い。

(21) は *International Journal of Eating Disorders* という雑誌に掲載されている “Comparing self-harming intentions underlying eating disordered behaviors and NSSI: Evidence that distinctions are less clear than assumed” という論文の概要から取られたものである。著者は Kathryn R. Fox、Shirley B. Wang、Chelsea Boccagno、Ann F. Haynos、Evan Klei-

man, Jill M. Hooley の6人で、この概要が、著者の一人 Ann F. Haynos が所属するミネソタ大学のウェブページ上で公開されている。この6人の大半は英語母語話者であると思われる。

(22) の文は、インド・ベンガル州にある、ホテル経営を学ぶ専門学校のウェブページから採集したものである。書いた人物は不明であるが、インドは英語を公用語の一つとする大国である。

(23) は *Archives of Sexual Behavior* という学術雑誌に掲載されている “Physical and Emotional Satisfaction at First Same-Sex Anal Sex in Young Gay and Bisexual Men” という題目の論文から取られたもので、執筆者は Sara A. Vasilenko, Cara Exten, Joshua G. Rosenberger という人物たちで、3人とも学士から博士までの課程をアメリカ合衆国内で修了している。

(24) は、ニューヨーク州立大学バッファロー校、科学芸術学部演劇舞踊学科の教員 Jenna Del Monte の経歴ページから取られた文である。氏名からは判断困難であるが、学士・修士の課程をアメリカ合衆国内で修了している人物である。

(25) は、カンザス州立大学の LGBT リソースセンターが研究発表を募集する告知の文章から取られたものである。文章を書いた人物は不明であるが、センターに勤める教職員であろう。

(26) は、北イリノイ大学の Madeline Greene という人物が書いたアニマルセラピーに関する卒業論文から取ったものである。単なる書き間違いの可能性も否定はできないが、指導教官の目をすり抜けたのであろうか。-ly 副詞が3つ連続するが、真ん中の *physical* のみ語尾の -ly を伴っていないのが興味深い。

(27) は、アメリカ合衆国の医療関連企業 Cigna が主催するイベントの告知の文章から取られたもので、このファイルそのものはニューイングランド大学（メイン州）のウェブページ上に置かれていたものである。なお、(27) の直前には *How physically or psychologically close you were to the*

event という文も見られ、こちらでは *or* によって等位接続されている二つの副詞の *-ly* が繰り返されている。

(28) は、Lancaster Bible College のウェブページにおける、キャンパスのサービスや学生支援について説明するページから取られた文である。ここでは、*-ly* 副詞が4つ連続するが、(26) と同様に、等位接続詞 *and* の直前の *physical* のみ *-ly* を伴わずに出現している。

(29) は、アメリカ合衆国のイエール大学と提携し、教員らが勉強会などを開催しているという Yale-New Haven Teachers Institute という組織のウェブページから取られたもので、授業・コースの概要を説明したものである。

(30) は、Loretta Rose Kramer という人物によって書かれ、アリゾナ大学に提出された *Compassion Fatigue among Travel Nurses* という題目の博士論文から採集されたものである。

(31) は、アメリカ合衆国メイン州にあるハイド高校のウェブページ上の、ある日の生徒の活動を報告した箇所から取られたものである。

(32) は、イギリスにある、St. Giles Church of England Primary School という小学校のウェブページ上の、保健体育の授業について説明がなされている箇所から取られたものである。

以上、今回集めた22例の「出自」について確認した。出典のジャンルが *informal* なものも含まれるが、可能な限り、査読や編集といった文章が点検されるであろう内容のものや、学術機関のウェブサイト上から用例を集め、そのことによって文例としての品質を担保させようと考えたが、英語母語話者によるものであると明確に判断できるものは多くは得られなかった。これらが英語以外の言語の話者によって書かれたものだとすると、もちろん問題がある。比較可能な文法構造を持つ2つ以上の言語を使いこなす話者・書き手がおり、その人物の母語において [adj.+adv.(ly)] という語列が不可能ないし義務的である場合、その構造を無意識のうちに第2

言語に転移する可能性があるからである。本稿では用例においてその可能性を排除することはできなかった。たとえば、以下の (34) は、Artemio Plana-Fattori というブラジル人研究者がフランス語で書いた博士論文の中から取ったものだが、現代フランス語では一般的ではない *-ment* の省略が確認でき、この研究者の母語であろうポルトガル語からの転移が見られる。

- (34) L'émissivité des couches superficielles du sol affecte *directe et indirectement* les luminances émergentes.

(<https://ori-nuxeo.univ-lille1.fr/nuxeo/site/esupversions/a70eb590-0659-40ac-8d0d-c25af11da0ae>)

このような事実をふまえ、本稿で扱った [adj.+adv.(ly)] という語列について、筆者がコンタクト可能な英語母語話者 3 名に¹⁵⁾ (19) を改変して作成した (35a) から (35d) までの例を提示し、どの文が「正しい」か、今までに見聞きしたことがあるかどうかを尋ね、母語話者としての意見を求めた。

- (35) a. It affected the diversity of insects on the island, directly and indirectly.
 b. It affected the diversity of insects on the island, direct and indirectly.
 c. It affected the diversity of insects on the island, directly and indirect.
 d. It affected the diversity of insects on the island, direct and indirect.

結果としては、3名のインフォーマントは3名とも (35a) のみが「正しく」、ほかの選択肢は「言えない」と回答した。うち1名からは「この (35) は学術的な内容の文だと思うが、文章語なのか会話なのか、どの地域の方言

かによっても結果は変わってくるだろう」というコメントを受け取った。本稿では、例文を探すにあたり、口語のデータも含んでいる British National Corpus も一度は使用したものの、うまく実例を見つけることができなかった。先に引用した Swan の指摘にあるとおり、-ly を伴わない形容詞をそのまま副詞として用いることがアメリカ英語の口語において顕著にみられる現象であるならば、今後はその点に焦点を当てた用例蒐集が求められるが、本稿で採用した筆者の考え方は逆で、編集上の種々の行程を経るはずの学術的な内容の文章において実例が発見されるのであれば、英語母語話者の反応はともかく、実態として当該現象が見られると言えるのではないかというものである。この等位接続された -ly 副詞の -ly の有無については、3.1 節でふれたように現象の記述が不十分であるし、本稿では実例を見つけることに主眼を置いた。シェイクスピアの英語においては見られた [adj.+adv.(ly)] ないし [adv.(ly)+adj.] の語列が、現代の母語話者に否定される事実の理由を闡明するには、より子細な通時的研究が必要となるが、本稿では田畑 (2017) の以下の指摘を確認するととどめよう。

本来形容詞であったものが、同形で副詞として一般に用いられる時代が、18 世紀中ごろまで続くことになるが、18 世紀末ごろには規範文法 (prescriptive grammar) が確立される。規範文法は ly 副詞こそが正しい副詞であり、単純形副詞は形容詞にすぎないとされ、単純形副詞はその後口語表現として生きながらえるが、多くの単純形副詞は衰退の一途をたどることになる。

(田畑 2017 : 58)

田畑の指摘は単独の flat adverbs について述べたものだが、-ly を伴わない語を副詞として用いることが規範によって禁忌となるなら、等位接続された [adj.+adv.(ly)] ないし [adv.(ly)+adj.] の語列においても同じことが言えるだろう。

3.4.3. 小括

以上、本節では本稿で蒐集した文例を分析し、さらに英語母語話者への聞き取り調査の結果を提示した。現代の英語母語話者は、本稿で調査した [adj.+adv.(ly)] のような語列を容認しないが、筆者が今回蒐集し、先に提示した用例の中には、母語話者が産出し、複数の別の母語話者にも読まれているであろう例文があることを示した。3.4.2. で述べたように、他の言語の話者が、その言語からの転移によって、[adj.+adv.(ly)] の語列を産出している可能性は排除できないが、我々の目の前にある現代英語の現象として記述することが重要であろう。

4. 結論

本稿では、ロマンス諸語における副詞化接尾辞 *-ment(e)* を伴う複数の副詞が等位接続される際、先行あるいは後続の副詞から接尾辞が脱落する現象を参照点にし、同様の統語環境における英語の *-ly* 副詞について、接尾辞 *-ly* の脱落する現象が観察されるかどうかを調査した。本稿で明らかとなった点を以下にまとめる。

- ・英語の副詞化接尾辞 *-ly* は、ロマンス諸語の *-ment(e)* 同様、元来は名詞であったものが文法化し接尾辞となったものであり、比較検討しうる。
- ・等位接続される *-ly* 副詞の接尾辞 *-ly* が省略される現象は、シェイクスピアの英語では、[adj.+adv.(ly)] であれ、[adv.(ly)+adj.] であれ、観察される現象である。
- ・現代英語における [adj.+adv.(ly)] の実例をインターネット上で探すと少なくない例が見つかり、本稿では学術的な内容のものを中心に 22 例を示した。
- ・本稿で得た例の中では、[adj.+adv.(ly)] が出現する前後の統語環境による、出現数の偏りはない。

- ・英語の非母語話者が書いたと推測されるものもあるかたわら、母語話者が書いたと判断できるものもある。一方で、筆者のインフォーマントは3名とも [adj. + adv. (ly)] という語列を容認しなかった。実例の使用域の問題、規範の問題については今後の課題とする。

注

- 1) Bello (1847) の文法書についてはあまりに多くの版があるため、特定の版のページ数よりも節番号を記すほうが有用である。
- 2) Nella lingua più antica si portevano avere, in parallelo con forme spagnole e francesi corrispondenti, due o addirittura tre aggettivi femminili concordati con un solo *mente*: villana ed aspramente, onesta e pacifica e discretamente: segno che ancora a quei tempi si manteneva il senso della composizione e, forse, del significato originario di questi costrutti. Esaurita la loro vitalità, gli avverbi composti con più d'un aggettivo tornarono di moda nel Cinquecento sotto l'influenza dello spagnolo (dove essi si sono continuati, al contrario che in italiano e in francese, fino ad oggi), ma anche questa loro nuova parabola si concluse presto (Serianni 1988 : 413).
- 3) これはあくまで綴り上の話で、発音はもちろん言語によって異なる。
- 4) ラテン語には文法範疇としての中性もあったが、(6) に示したロマンス諸語では失われている。
- 5) 現代フランス語以外の主たるロマンス語には女性名詞 *ment(e)* (「心、精神」) として残っている。
- 6) Penny (2002) は “An indication that *mente* is moving towards the status of derivational suffix comes in late Latin texts...” としている (Penny 2002: 131)。
- 7) *ferō* 「運ぶ」の未完了過去3人称複数形。
- 8) ゲルマン語の *wīsa* (RAE y ASALE 2014) から借入されたもので、英語の *wise*、ドイツ語の *Weise* に対応する。フランス語では *guise*、イタリア語では *guisa*。スペイン語では副詞化接尾辞としては廃れ「方法」を意味する語として残存するが、英語においてはその逆で、「16C以降すたればはじめたが、-wise として残っている (寺澤 1999 : 1571) 」。
- 9) (a) 形容詞に *-ly* の接尾辞を付加する (quick → quickly)、(b) 同形のまま品詞を転換する (hard → hard)、(c) *-wise* など、他の接尾辞を付加する (other → otherwise) といった方策が考えられる。

- 10) この引用部冒頭の this ambivalence とは、この前の段落で議論されている、*-ly* の付加を派生 (derivational morphology) と捉えるか、屈折 (inflectional morphology) と捉えるかの問題を指している。これについては学者の理論的態度によって変わってくるだろう。筆者はこの問題には立ち入らない。
- 11) 日本語においても様態を表す表現で「～の体(てい)で」と言うのに比較できよう。
- 12) Swan のこの文法書には通しのページ番号がない。
- 13) ここで大塚 (1976) が用いているシェイクスピア作品の略記は、*Cæs.*=Julius Cæsar (『ジュリアス・シーザー』)、*Err.*=The Comedy of Errors (『間違いの喜劇』)、*Meas.*=Measure for Measure (『尺には尺を』)、*R3*=The tragedy of King Richard III (『リチャード3世の悲劇』)である。
- 14) 現在 edu. というドメイン名はアメリカ合衆国内の教育機関のウェブサイト割り当てられているが、他国の機関であっても、ドメイン名が合衆国内に固定化される前にこれを取得し、保持しているところがある。
- 15) 本学の教員1名と、筆者の前任校である福岡大学の教員2名に尋ねた。イギリス出身、アメリカ合衆国出身、ニュージーランド出身の方がそれぞれ1名ずつである。

参考文献

- 安達直樹 (2009) 「スペイン語史およびスペイン語学史における mente 副詞」
HÍSPANICA 53, pp.1-15.
- 安藤貞雄 (2005) 『現代英文法講義』開拓社、東京。
- Declerck, Renaat (1991) *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*,
Kaitakusha, Tokyo.
- Depraetere, Ilse and Chad Langford (2020) *Advanced English Grammar—A
Linguistic Approach—*, 2nd ed., Bloomsbury, London.
- Dworkin, Steven N. (2018) *A Guide to Old Spanish*, Oxford University Press,
Oxford.
- 江川泰一郎 (1991) 『英文法解説—改訂三版—』金子書房、東京。
- エルコック, W. D.[大高順雄訳] (2009) 『ロマン語—新ラテン語の生成と進化—』
学術出版会、東京。
- 堀正広・赤野一郎監修 (2019) 『英語コーパス研究シリーズ6 コーパスと英語
史』ひつじ書房、東京。
- Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum [田中江扶・中島基樹・川崎修一・
飯沼好永訳] (2017) 『「英文法大辞典」シリーズ第4巻 形容詞と副詞』開拓社、

- 東京。
- 家入葉子 (2007) 『ベーシック英語史』 ひつじ書房、東京。
- 岩本弓子、田島松二 (1994) 「シェイクスピアにおける単純形副詞 (Flat Adverb) について」 『言語科学』 (九州大学) 29、pp.29-41。
- 小林標 (2019) 『ロマンスという言語—フランス語は、スペイン語は、イタリア語は、いかに生まれたか—』 大阪公立大学共同出版会、大阪。
- Kastovsky, Dieter (2006) “Typological Changes in Derivational Morphology” in Kemenade, Ans van and Bettelou Los (eds.) *The Handbook of the History of English*, Wiley-Blackwell, Chichester, pp.151-176.
- 三好助三郎 (1977) 『新独英比較文法』 郁文堂、東京。
- 西部真由美 (2007) 「大規模コーパスと Web を利用した現代イギリス英語における副詞 different と differently の分析」 『東邦学誌』 (愛知東邦大学) 36、Vol.2、pp.101-110。
- 野原康弘 (2002) 「副詞の歴史的変遷—現代英語から Shakespeare の英語、Spencer の英語、Chaucer の英語、そして古英語まで—」 『英米評論』 (桃山学院大学総合研究所) 17、pp.49-78。
- 大塚高信 (1976) 『シェイクスピアの文法』 研究社、東京。
- Penny, Ralph (2002) *A History of the Spanish Language —Second edition—*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman, New York.
- Serianni, Luca (1988) *Grammatica italiana —Italiano comune e lingua letteraria—*, Unione Tipografico-Editorice Torinese, Torino.
- Smith, Jeremy J. (2009) *Old English —A Linguistic Introduction—*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Swan, Michael (2016) *Practical English Usage*, Fourth edition, Oxford University Press, Oxford.
- 田畑圭介 (2017) 「古英語から現代英語に至る ly 副詞の歴史的発達について」 『言語文化研究 / Language and Culture』 (神戸親和女子大学) 11、pp.43-62。
- Tagliamonte, Sali A. (2018) “*Near done; awful stable; really changing—The suffixless adverb in dialects of the UK—*”, *Diachronica* 35 : 1, pp.107-143.
- 寺崎英樹 (2011) 『スペイン語史』 大学書林、東京。
- 寺澤芳雄編 (1999) 『英語語源辞典縮刷版』 研究社、東京。
- Wheeler, Max W., Alan Yates and Nicolau Dols (1999) *Catalan: A Comprehensive Grammar*, Routledge, London.

辞書及び例文採集元

Carr, Edward Halett (1961 [1990]) *What is History?* (Penguin Books), Penguin, London.

Cobuild Online <https://www.collinsdictionary.com/dictionary/english>

Hogan-Brun, Gabrielle (2017) *Linguanomics — What Is the Market Potential of Multilingualism—*, Bloomsbury, London, p.61.

池田廉編 (1999) 『伊和中辞典〈第2版〉』小学館、東京。

池上岑夫他編 (2005) 『現代ポルトガル語辞典 (改訂版)』白水社、東京。

RAE y ASALE (2014) *Diccionario de la lengua española 23ª edición*, Espasa, Madrid.

Routledge, *Catalan Dictionary English-Catalan Catalan-English*, Routledge, London, 1994.

田村毅ほか編 (2005) 『ロワイヤル仏和中辞典第2版』旺文社、東京。

本文で用いた例文採集元の各ウェブページへの最終アクセス：2020年12月上旬。